



# 「こんにちは 市長です」

## 2月1日号

この時季になると最大の関心事は「予算」、とりわけ歳入（市に入る収入）がどうなるか。「どうかね？」と聞くと口をへの字にして「やばいですね」という返事。私が3階の財政課に行くとある種の警戒心（多分、新たな事業をやりたがるから）なのだろう、苦虫をかみつぶしたような渋めの顔が常なのだが今年はとりわけ顔が引きつっている。法人市民税が大きく落ち込む。もともと税の改正が行われて法人税が減ることになるのだが、新年度は22億1千万円と大幅に落ち込む。令和2年度はきつい年度になる。

法人税の過去を見てみると、平成28年度決算104億9千万円、29年度62億5千万円、30年度73億6千万円、令和元年度の予算で46億円（決算見込み38億円）であった。28年度に比べれば5分の1になり、対前年度比51.9%減の22億1千万円になってしまった。これが現実ではあるけど、まちは前に進まなければいけない。市民の満足度を高めていかなければならない。法人税の収入が多くあった年には貯金（財政調整基金など）をし、借入金を極力抑えてきた。新年度は貯金から49億2千万円繰り入れをし、846億円程度の予算を組む予定にしている。当然、借金は減らす。

企業城下町にはこういうこともある。今年は市街化調整区域から市街化区域へ201ha編入する。北関東自動車道のインターチェンジは強戸インターを加えて3カ所にした。企業進出を促すために産業団地を積極的に造った。ものづくりを補完するために流通分野を充実させる意味もある。そして、増える人口を確保するために住居地域を拡大する。中枢都市としての存在意義は高まるとしての判断である。まちは動きを止めるといずれ落ちていくしかないのだ。